

研究ノート

体操競技男子 2022-2024年版採点規則の概要 と演技構成上の指標

——Dスコアの得点算出に關与する変更点に着目して——

高 橋 孝 徳

東京国際大学論叢 人間科学・複合領域研究 第7号 抜刷
2022年（令和4年）3月20日

研究ノート

体操競技男子 2022-2024 年版採点規則の概要 と演技構成上の指標

——D スコアの得点算出に關与する変更点に着目して——

高 橋 孝 徳

2022–2024 Men’s Artistic Gymnastics Code of Points: A Summary of Rules and Indicators of Future Performance

TAKAHASHI, Takanori

Abstract

Beginning in January 2022, new rules governing men’s Olympic gymnastics have been adopted around the world. The issuance of these new rules by the FIG (Fédération Internationale de Gymnastique), the governing body of gymnastics worldwide, has been delayed by one year due to the Covid pandemic when compared to the typical 4-year cycle, and participants must therefore carefully consider how to adapt to these new rules in the shortened time period before the Paris Olympics. Though the overall evaluation criteria for gymnastics have not greatly changed with the new rule release, some important alterations have occurred. The number of skills has greatly decreased when compared to the 2017 version, dropping from 821 to 759. This is mainly attributed to reclassifying many formerly separate skills into one, as well as removing skills no longer performed in modern gymnastics due to aesthetics or safety considerations. Most notably, rules concerning connection bonus on the floor and horizontal bar have also changed significantly, as well as some rules regarding repetition on the pommel horse and horizontal bar. Due to the large changes related to connection bonus, one should expect major changes to exercise composition on both floor and horizontal bar from the previous Tokyo Olympics.

目 次

はじめに

1. 2022年版採点規則の概要と主な変更点
2. 2017年版採点規則による演技構成との比較, および演技構成上の指標
3. まとめ

はじめに

体操競技における採点規則は、国際体操連盟（Fédération Internationale de Gymnastique：以下FIGと記す）により発刊される。

適用期間は通例、オリンピック開催年を区切りとした4年のサイクルであり、翌年1月からは新ルールが適用され、次のオリンピック開催年まで運用となる。

上記の適用サイクルに当てはめると、2021年1月からは「2021-2024 CODE OF POINTS」（以下、2021年版採点規則と記す）が適用される予定であったが、オリンピック東京大会の1年延期に伴い、新ルールの運用は2022年1月へと先延ばしとなり、また名称は2022-2024 CODE OF POINTS（以下、2022年版採点規則と記す）に修正された。

2021年版採点規則のドラフト版は第1版が2019年9月、第2版が2020年3月に発表された。しかし、COVID-19による感染拡大の影響によりその後2021年内に確定版が発表されることはなく、変更箇所や追加情報のみがFIG Newsletterで公表されたのみであった。

適用される期間は、今までのサイクルよりも1年短い3年間となり、2024年12月までとなる。そのため、選手は今までの競技サイクルよりも短い期間で新ルールを攻略し、2024年オリンピックパリ大会までに対応しなければならない。競技力向上のためには、新ルールの概要をいち早く把握し、その方向性に対応させた演技構成を検討する必要がある。

そこで、本稿では、演技構成を構築する上で重要となるDスコアの得点算出に関与する変更点に着目し、その方向性を抽出するため、オリンピック東京大会種目別決勝進出者の演技を対象に、2022年版採点規則を適用して採点を行い、Dスコアがどのように変動するかを探ることとした。これにより、新しい演技構成を構築する上での指標が明らかとなり、2024年オリンピックパリ大会に向けてのトレーニング戦略の方向性を決定するための一助となることを目的とする。

1. 2022年版採点規則の概要と主な変更点

1.1 一般条項

2022年版採点規則一般条項における主な変更は以下の項目に整理される。

- ①短い演技に対してのニュートラルディダクションの減点設定の変更
- ②R審判制度の廃止, およびE審判の配置人数を5名から7名へと増員
- ③Eスコアの算出は7人のE審判の上下2得点ずつカットの3得点の平均
- ④減点項目の追加, 変更
- ⑤伸身から屈身姿勢までの屈曲度をイラストで提示, 判定の指標を明確化 (図1)

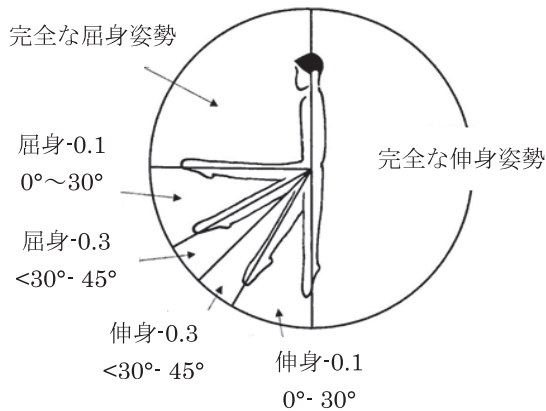


図1 姿勢の屈曲度による伸身と屈身の分類

屈曲度が伸身姿勢から45°を超えると屈身と判定される。また、曖昧な屈曲姿勢は屈曲度数により減点が明確となった
 ※ FIG2022年版採点規則掲載のイラストから引用し一部修正

上記で整理された5つの項目の中で、特に⑤はD審判がDスコアを算出するにあたり、技の認定に大きく影響を与えるものと考えられる。全く同じひねり度数、または回転数、運動経過であっても姿勢により難度価値の違いが生じる技は、あん馬を除く5種目で複数存在する。2017年版採点規則の補足説明では姿勢については文言による解説のみが記載されていたが、2022年版採点規則ではイラストによる提示がなされており、対象となる技の判定に役立つと考えられる。

上記5つの項目に加え、表記や表現の変更、修正、また矛盾が生じていた項目の整理が行われた。

Dスコアの得点算出の基本的な手順は2017年版採点規則から変更は生じていない。しかし、種目ごとにはそれぞれ特有の項目が設けられており、繰り返しや特例の条件に複数箇所変更や追加がなされた。

1.2 技の登録数

全体での登録数

2017年版と2022年版採点規則での難度表に掲載された技（粋）数を比較した。

2017年版採点規則、およびその後新技として追加された技を含めると、6種目全体で821技が登録されている。これが2022年版では整理統合され、6種目のいずれにおいても減少しており全体数で759技となっている（表1）。

減少した要因は個々の技によって意図が異なるが、全体を通しての傾向では現代の体操競技の

表1 2017年版と2022年版採点規則に掲載の種目ごとの技数

	ゆか	あん馬	つり輪	跳馬	平行棒	鉄棒	合計
2017年版	112	128	157	99	178	147	821
2022年版	96	113	149	94	177	130	759
減少数	16	15	8	5	1	17	62
減少比	85.7%	88.3%	94.9%	94.9%	99.4%	88.4%	92.4%

演技構成上で実施が見られない技、またはそぐわない技が削除されたこと、1/2ひねりを加えて別枠が与えられていた技がひねりを伴わない技に統合されたことなどがあげられる。一方で追加された技は僅かであり、結果として合計62技の減少につながった。

1.3 種目ごとによる技の登録数の変化と主な規則変更の概要

1) ゆか

ゆかにおける技の登録数は96技であり、2017年版採点規則の112技から16技の減少となっている(表2)。難度表の変更は表3に示した。

主な減少理由として、A、B、C難度のひねりを伴う宙返り技が2017年版まで1/2ひねりごとに別枠で掲載されていたが、これらを整理し、複数の技を同枠に統合させ簡素化したことが一因である。ただし、2回以上のひねりを伴う技では、そのまま個別に存在しており、対象となった技の多くは下位難度の技である。高難度の技で同様の考え方により手が増えられたのは「前方かかえ込み2回宙返りひねり」がE難度からD難度へ、「前方屈身2回宙返りひねり」がF難度からE難度へ、それぞれひねりのない一段階低い技へと統合されたのみである。

低難度技での技の統合はジュニア層や初級者にとって演技構成を作成する上で選択する技が少なくなることになり、取り込む技の選択、構成の見直しに迫られるであろう。

一方、高難度技では、H難度に「前方伸身2回宙返り3/2ひねり(ザパタ2)」と、ゆかで初めてとなるI難度に「後方屈身3回宙返り(ナゴルニー)」が追加された。

「倒立から伸膝前転脚前拳支持経過閉脚倒立」は2017年版では脚前拳支持から脚を抜いたのち開脚をしながら倒立に収める捌きが許されていたが、2022年版では全経過、閉脚が条件となった。これにより今まで無価値な開脚による減点項目から免れていた特例が外された。

ゆかではタンブリングでの連続に組合せ加点が設けられており、2022年版でも組合せ加点は踏襲された。変更点としてDスコアの算出に関わる10技に数えられる技に限定されたこと、2回宙返りの技と直接連続された技、もしくは前・後方の伸身宙返りとの組み合わせによるD難度以上の技のみが組合せ加点を与えられることとなった。ひねりを伴った宙返りの高難度技による連続は組合せが与えられない。FIGの見解によると、ひねりを伴う高難度技の連続は審判員の負担になることを理由としてあげていたが、体操競技の発展からはやや逆行した設定であると言わざるを得ない。これにより、ひねり技の連続を得意としていた多くの日本選手には、新たな取り組みが必要となってくる。

2013年版で設けられていた対角線でのタンブリングの制限が、2022年版では少々形式が変わり復活した。2022年版では対角線で3回(1往復半)を繰り返すことができるが、これを超えての実施はニュートラルディタクションとして0.3の減点が科せられることとなった。ただし、仮に3回を超えて実施してもDスコアはそのまま認定される。

表2 ゆか 難度別による掲載された技数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	合計
2017年版	29	28	18	14	9	8	4	2		112
2022年版	23	22	14	14	9	7	3	3	1	96

表 3 ゆか 難度表変更一覧

番号	変更項目	変更内容
1	枠の統合、難度変更	「前方かかえ込み 2 回宙返りひねり」が「前方かかえ込み 2 回宙返り」と統合し D 難度へ変更
2	枠の統合、難度変更	「前方屈身 2 回宙返りひねり」が「前方屈身 2 回宙返り」と統合し E 難度へ変更
3	難度変更	「前方かかえ込み 2 回宙返り 1 回ひねり」が E 難度へ変更
4	難度変更	「前方かかえ込み 2 回宙返り 3/2 ひねり」が F 難度へ変更
5	枠の統合	「前方伸身宙返り」と「前方伸身宙返りひねり」が統合
6	枠の統合	「前方伸身宙返り 1 回ひねり」と「前方伸身宙返り 3/2 ひねり」が統合
7	枠の統合	「後方伸身宙返り」と「テンゴ宙返り」が統合
8	枠の統合	「後方伸身宙返りひねり」と「後方伸身宙返り 1 回ひねり」が統合
9	枠の統合	「後方伸身宙返り 3/2 ひねり」と「後方伸身宙返り 2 回ひねり」が統合
10	追加	「後方屈身 3 回宙返り (ナゴルニー)」の追加 (I 難度)
11	技の変更	「閉脚 (開脚) 旋回 2 回」が「1 回」で A 難度に変更
12	削除	「後方倒立回転」・「背面支持臥から片足で蹴って倒立」の削除
13	削除	「ブレイクダンスの変形」の削除
14	削除	「前転から手を広げた開脚浮腰支持経過十字倒立」の削除
15	削除	「首 (頭) はね起きひねり倒立 (1 回ひねり背面支持臥)」の削除
16	削除	「1 回ひねり前転とび」の削除
17	削除	「前方伸身宙返り正面支持臥」の削除
18	削除	「片足踏み切り前方伸身宙返り」の削除
19	削除	「前方かかえ込み (屈身 or 伸身) 宙返り 1 回ひねり正面支持臥」の削除
20	削除	「後ろとびひねり前転とび」の削除
21	削除	「後ろとびひねり前方かかえ込み (屈身) 宙返り正面支持臥」の削除
22	追加	「前方伸身 2 回宙返り 3/2 ひねり (ザバタ 2)」の追加 (H 難度)
23	条件追加	「倒立から伸膝前転脚前拳支持経過閉脚倒立」全経過、閉脚とする

※ (公財) 日本体操協会 体操競技男子 2022 年版採点規則情報を元に加筆、修正を行った

2) あん馬

あん馬における技の登録数は 113 技であり、2017 年版採点規則の 128 技から 15 技の減少となっている (表 4)。難度表の変更は表 5 に示した。

着目すべき変更点として、正面横移動群と背面横移動群における同等の移動幅の捌きを伴う技を統合がされた。これにより今後は正面横移動と背面横移動の区別はなくなり、今まで認識されていた技の構造の分類が失われていくことにもなるであろう。大きな歴史的な変革である。

フロップ、コンバインは 1997 年版採点規則から採用されているあん馬独自のルールである。フロップを構成する技は A シュテクリ, B シュテクリ, 一把握上旋回の 3 技, コンバインにはこれに

表 4 あん馬 難度別による掲載された技数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	合計
2017 年版	18	35	29	27	17	2				128
2022 年版	16	29	26	25	14	3				113

ロシアン転向技が加わる4技に限定されていたが、今回新たに「一腕上上向き270°転向（横向き～縦向き）」（以下：ベルトンチェリ）と「一腕上下向き270°転向（横向き～縦向き）」（以下：3/4ベズゴ）が追加された。これらを組み入れることによりさらなる難度の格上げが可能となり、コンバインでは最大でH難度まで高めることができるようになった。ただし、ベルトンチェリや3/4ベズゴを導入しても今までのフロップ、コンバインに0.1の格上げのみであるため、落下や複数の減点を伴うリスクを勘案すると、一腕上上向き全転向（ショーン）や一腕上下向き全転向（ベズゴ）を得意とする選手に限られる可能性も高いと考えられる。

あん馬の旋回技の始まりと終わりの姿勢は正面支持となっているが、今まで多くの特例が認め

表5 あん馬 難度表変更一覧

番号	変更項目	変更内容
1	難度変更、条件追加	「ドリッグス」がF難度へ変更 ※ホップ、正面支持隊が条件
2	枠の統合	「リーニン」と「ブライアン」が統合
3	枠の統合	「馬端縦向き旋回1/4ひねり横向き支持」と「馬端横向き旋回1/4ひねり縦向き支持」が統合
4	枠の統合	「馬端縦向き旋回ひねり」と「馬端横向き旋回ひねり」が統合
5	枠の統合	「両手を挟んで旋回1回ひねり（ケイハ1）」と「両手を挟んで外向き旋回1回ひねり（2回以内の旋回で）（ケイハ5）」が統合
6	枠の統合、難度変更	「逆交差倒立」と「正交差1/4ひねり倒立1/4ひねり逆把手に片腕支持逆交差入れ」が統合しC難度へ変更
7	枠の統合、難度変更	「開脚旋回縦向き3/3前移動」が「マジヤール」と統合しD難度へ変更
8	枠の統合、難度変更	「開脚旋回縦向き3/3後ろ移動」が「シバド」と統合しD難度へ変更
9	追加	「縦向き前移動（両手を越えて馬端～馬端）」の追加（E）
10	追加	「馬端横向き支持からロシアン630°（以上）転向移動（3/3部分）」の追加（D）
11	削除	「（開脚）支持から後ろ抜き倒立、下ろして閉脚（開脚）旋回」の削除
12	削除	「セラスライ」と「セラスライ2」の削除
13	削除	「（開脚）旋回倒立、下ろして開脚支持」の削除
14	削除	「背面とび横移動倒立経過、下ろして開脚支持」の削除
15	削除	「下向き逆移動（orDSA）倒立経過、下ろして開脚支持」の削除
16	削除	「把手上上向きとび転向」の削除
17	削除	「下向きとび転向（スイスドゥープル）」の削除
18	技の統合	「正面横移動」と「背面横移動」と統合 A 難度
19	技の統合	「正面横移動連続（馬端～馬端）」と「背面横移動連続（馬端～馬端）」が統合
20	技の統合	「正面とび横移動」と「背面とび横移動」が統合
21	技の統合	「正面横移動連続（馬端～馬端：あん部馬背着手）」と「背面横移動連続（馬端～馬端：あん部馬背着手）」が統合
22	技の統合	「正面とび横移動連続（馬端～馬端）」と「背面とび横移動連続（馬端～馬端）」が統合
23	技の統合	「1回の旋回で正面横移動（馬端から両手を越えて逆馬端）」と「2回の旋回で背面横移動（馬端馬背から両手を越えて逆馬端馬背）」が統合
24	技の統合	「正面とび横移動（馬端～馬端）」と「背面とび横移動（馬端～馬端）」が統合
25	条件変更	「一手を挟んで横向き旋回1回ひねり（2回以内の旋回で）」 “一手を挟む”を追加
26	技の統合	「馬端旋回1回ひねり（2回以内の旋回で）」 縦向きと横向きが統合
27	条件変更	「1回の旋回で正面横移動（馬端1・2から逆馬端4・5へ移動）」 D 難度

※（公財）日本体操協会 体操競技男子2022年版採点規則情報を元に加筆、修正を行った

られていた。FIGは2019年に馬端横向き正面支持から、両足入れて1/4上向き転向しながら縦向き背面支持からのウ・グオニアンを認めると発表した*7)が、2022年版採点規則では1/4上向き転向後の横向きの正面支持からを技の始まりとして「馬端横向き支持からロシアン630°(以上)転向移動(3/3部分)」(D難度)を新しく設けた。

この考えは、同様の捌きとなるロスにも適用されることになり、この場合は「上向き転向」のA難度と判定することになる。

2017年版採点規則では開脚旋回による縦向き旋回3部分移動が前後移動ともにE難度として独立していたが、今回は閉脚と同枠のD難度に統合された。一方、縦向きとび前移動(馬端～馬端)(以下、ドリッグスと記す)は、“とび”の局面を判断するため、正面支持隊の姿勢を求めているが、これを要求する捌きは、F難度に設定され、要求せずに馬端から馬端へと移動する捌きはE難度として独立して枠が与えられた。

他には、特別な繰り返し制限として2017年版からの踏襲も含め以下の8つの条件が示された。

- ①縦向き3部分移動技の制限として対象8技のうち、実施可能な技は2技とする
- ②ロシアン転向技は2回までとする。さらに条件として同じ部位(馬端馬背、一把手上、あん部馬背)で実施された転向度数が違うロシアン技の場合、難度の高い技一技のみが認定される。ただし、演技中間と終末技が同じ部位で実施されたロシアン転向技の場合は、終末技のロシアン転向の転向度数が少なくても優先することになる。
- ③交差または旋回からの倒立技は終末技を除き、2回まで実施可能とする
- ④ロシアン転向移動技は対象技が7技あるうち、2技までとする
- ⑤ひねりを伴う3部分移動技は4技あるうち、2技までとする
- ⑥シュピンドル(1回)ひねり技は6技あるうち、2技までとする
- ⑦ベズゴ系の技はフロップ、コンバイン、倒立位を含めて2回までとする
- ⑧ショーン系の技はフロップ、コンバイン、倒立位を含めて2回までとする

これらの条件は同じ系統の技のみで演技の大半を占める状況を抑制し、多種多様な技を導入させることには一定の効果があるかもしれない。しかし、条件が多くなるにつれ、結果的に演技構成のモノトニー化が促進されることも想像される。

難度の格上げとして、「1回の旋回で正面横移動(馬端1-2から逆馬端4-5)」がC難度からD難度に格上げされた。この技は縦向き旋回移動とは比較して向きのズレによる大きな減点が伴わないこと、旋回の数少なく実施できることなどから、今後多くの選手が取り掛かる可能性が高いと推察される。

3) つり輪

つり輪における登録数は149技であり、2017年版採点規則の157技から8技の減少となっている(表6)。難度表の変更は表7に示した。

正面水平懸垂から繋げられるグループⅡの力技がすべて削除された。これは、正面水平懸垂後に繋げる動きに曖昧な捌きが多いこと、またその際の姿勢不良が際立つこと、ひとつの技として

表6 つり輪 難度別による掲載された技数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	合計
2017年版	20	27	36	37	25	10	1	1		157
2022年版	20	26	30	33	28	10	1	1		149

融合が図りにくいことなどが要因であると考えられる（表7，番号16～20）。

終末技では「ケステ」とその関連の技が削除された。これらは現代の競技会で実施されることが無く，つり輪の発展からは逸れていることが考えられる。

難度の設定変更では，「開脚水平支持（2秒）」がB難度からA難度に格下げされ，関連する技においても全て一段階ずつ格下げされた。2019年9月のドラフト版第1版では，これらはすべて削除する技とされていたが，筆者らにより成長過程にある選手のためには残すべきであることをFIGへ提言したことにより，削除は免れた。

表7 つり輪 難度表変更一覧

番号	変更項目	変更内容
1	難度変更	「開脚水平支持（2秒）」がA難度に変更
2	難度変更	「ほん転逆上がり開脚水平支持（2秒）」がB難度に変更
3	難度変更	「後ろ振り上がり開脚水平支持（2秒）」がB難度に変更
4	難度変更	「ほん転逆上がり十字倒立（2秒）」がE難度に変更
5	難度変更	「後ろ振り上がり十字倒立（2秒）」がE難度に変更
6	難度変更	「後方け上がり十字倒立（2秒）」がE難度に変更
7	難度変更	「ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持（2秒）」がE難度に変更
8	枠の分化	「バランディン」と「バランディン3」が別枠に変更
9	枠の統合、難度変更	「前方屈身（伸身）宙返りひねり下り」が「前方屈身（伸身）宙返り下り」と統合しA難度に変更
10	枠の統合、難度変更	「後方屈身（伸身）宙返りひねり下り」が「後方屈身（伸身）宙返り下り」と統合しA難度に変更
11	枠の分化、難度変更	「前方屈身（伸身）宙返り1回ひねり下り」がB難度に変更（3/2ひねりは変更無し）
12	削除	「背面懸垂前振り上がり支持前方回転振り出し懸垂後ろ振り（ショラニー）」の削除
13	削除	「懸垂（支持）後ろ振り出し、背面懸垂前振り上がり（リーニン・リーニン2）」の削除
14	削除	「前方屈身車輪倒立経過」の削除
15	削除	「支持後ろ振り前方かかえ込み宙返り支持」の削除
16	削除	「伸腕伸身正面水平懸垂経過十字倒立（2秒）」（ペトロウニアス）の削除
17	削除	「伸腕伸身正面水平懸垂経過十字懸垂（2秒）」（ピネダ）の削除
18	削除	「伸腕伸身正面水平懸垂経過脚上十字懸垂（2秒）」（ツカハラ2）の削除
19	削除	「伸腕伸身正面水平懸垂経過水平支持（2秒）」（ファム）の削除
20	削除	「伸腕伸身正面水平懸垂経過中水平支持（2秒）」（バブサー）の削除
21	削除	「脚前拳支持から伸腕屈身力十字倒立（2秒）」の削除
22	削除	「リーニン（リーニン2）から脚上十字懸垂2秒」の削除
23	削除	「リーニン（リーニン2）から十字（脚前拳十字）懸垂2秒」の削除
24	削除	「後方け上がり開脚水平支持（2秒）」の削除
25	削除	「後ろ振上がり後方かかえ込み宙返り下り（ケステ）」の削除
26	削除	「後ろ振り上がり後方屈身（伸身）宙返り下り」の削除
27	削除	「後ろ振り上がり後方伸身宙返り1回ひねり下り」の削除
28	条件変更	「後方け上がり支持」(A) → 「後方屈腕け上がり支持」屈腕を追記
30	条件変更	「後方伸腕け上がり支持」(B) → 「後方け上がり支持」伸腕を削除
31	条件変更	「後方伸身支持回転倒立（2秒）」(B) → 「後方屈腕伸身支持回転倒立（2秒）」
32	条件変更	「ゆっくりと前方屈身支持回転」(A) → 「ゆっくりと前方屈腕伸身支持回転」屈腕を追記
33	条件変更	「ゆっくりと前方伸身支持回転」(B) → 「ゆっくりと前方屈腕伸身支持回転」屈腕を追記
34	追加	「懸垂から伸腕伸身倒立（2秒）」E難度

※（公財）日本体操協会 体操競技男子2022年版採点規則情報を元に加筆，修正を行った

高難度技では、「ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持（2秒）」がF難度からE難度へ格下げとなった。この技は世界の強豪選手のほとんどが実施している技であるため多くの選手がDスコアを0.1下げることになる。

一方で終末局面が十字倒立になる3技（表7、番号4、5、6）は一段階難度が格上げとなったことにより、多くの選手が取り組んでいくと予想される。

つり輪の条項には以下の項目が追記された。

「振動や引き上げからの力静止技において、最終静止姿勢よりも肩や体の位置が上がってはならない。最終静止姿勢からの逸脱が45°を超える場合は、その価値は認められず、0.5の減点となる。その後、最終的な静止姿勢がみられた場合はその技は認められる」。※5) .80p Article 12.2.3.3を抜粋し翻訳

これにより、2017年版採点規則では「輪の高さで前方宙返り直接十字（脚前拳十字）懸垂（2秒）」（以下、ホンマ十字懸垂と記す）を実施した際、肩が高い位置から持ち込まれた場合、難度は不認定とされていた判定が、2022年版採点規則では十字懸垂のB難度が認定されることとなった。ただし、技のグループがⅢからⅡへと変更になるため、他に実施されている技との“特別な繰り返し”に抵触する可能性があり、注意を要する。

4) 跳馬

跳馬における技の登録数は94技であり、2017年版採点規則の99技から5技の減少となっている（表8）。価値点の変更は生じていない。

削除された技は側方系の入りから1/4ひねり戻す跳越技、およびその発展技（2技）、第二局面で姿勢の変化を伴う跳越技、およびその発展技（3技）である（表9）。これらは、現在、実施を見ることがなく、選手が取り組む段階的な技の進化の過程からは逸れていることからの判断だと考えられる。

跳越グループの4つの分類は大きな改変がなされた。2017年版までは第一局面での入りの捌きに

表8 跳馬 価値点別による掲載された技数

価値点	1.6	1.8	2.0	2.2	2.4	2.6	2.8	3.0	3.2	3.4	3.6	3.8
2017年版	3	4	4	5	8	3	6	4	6	2	7	3
2022年版	3	4	4	5	7	3	5	4	6	2	7	3

価値点	4.0	4.2	4.4	4.6	4.8	5.0	5.2	5.4	5.6	5.8	6.0	合計
2017年版	6	2	4	2	4	2	6	3	8	2	5	99
2022年版	5	2	3	2	3	2	6	3	8	2	5	94

表9 跳馬 難度表変更一覧

番号	変更項目	変更内容（2017年版で設定されていた価値点）
1	削除	「前転とび1回ひねり前方かかえ込み宙返り（ベールント）」の削除（価値点4.0）
2	削除	「前転とび1回ひねり前方屈身宙返り（レーム）」の削除（価値点4.4）
3	削除	「前転とび1回ひねり前方屈身宙返りひねり（アリカン）」の削除（価値点4.8）
4	削除	「側転とび1/4ひねり前方かかえこみ宙返り」の削除（価値点2.4）
5	削除	「側転とび1/4ひねり前方屈身宙返り」の削除（価値点2.8）

※（公財）日本体操協会 体操競技男子 2022年版採点規則情報を元に加筆を行った

より分類されていたが、2022年版では、前方系、側方系、ユルチェンコ系の3系統を3つの異なったグループに分類し、さらに前方系、および側方系における技のうち第二局面において1回宙返りに1回以上のひねりが加わる技を抽出し、新たな1つのグループとして整理された。

これは第二局面でのひねり度数が増すほどに第一局面における前方系と側方系の入りの捌きが同化し、区別が困難になっていた問題を解消するのに役立つ方策である。

5) 平行棒

平行棒における技の登録数は177技であり、2017年版採点規則の178技から1技の減少となっている(表10)。

技数の減少は軽微であるが難度の格上げや格下げ、追加や削除など24項目での変更が確認された(表11)。

表10 平行棒 難度別による掲載された技数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	合計
2017年版	17	40	42	36	27	9	7			178
2022年版	15	35	41	34	30	15	7			177

表11 平行棒 難度表変更一覧

番号	変更項目	変更内容
1	難度変更	「車輪ディアミドフ(単棒倒立)」がE難度に変更
2	難度変更	「前振り上がり1/4ひねり単棒倒立」は「ほん転倒立1/4ひねり単棒横向き倒立」としてC難度に変更
3	難度変更	「車輪ディアミドフ(1/4)ひねり」がF難度に変更
4	難度変更	「車輪ディアミドフ単棒倒立 ※ヒーリー系の技へつなげた場合」がF難度に変更
5	難度変更	「前方かかえ込み2回宙返りひねり下り」・「後ろ振りひねり後方かかえ込み2回宙返り下り」がE難度に変更
6	難度変更	「前方屈身2回宙返りひねり下り」がF難度に変更
7	難度変更	「棒端、懸垂前振り後方屈身2回宙返り下り」がD難度に変更
8	難度変更	「棒端、懸垂前振り後方かかえ込み2回宙返り下り」がC難度に変更
9	難度変更	「棒端、懸垂前振り後方かかえ込み2回宙返り1回(1/2)ひねり下り」E難度に変更
10	枠の統合	「正倒立ひねり」と「逆倒立ひねり」が統合
11	枠の統合、難度変更	「棒下宙返りひねり(1/4)倒立」が「棒下宙返り倒立」と統合してD難度に変更
12	枠の統合、難度変更	「前方屈身(伸身)宙返りひねり下り」が「前方屈身(伸身)宙返り下り」と統合しA難度に変更
13	枠の統合、難度変更	「後方屈身(伸身)宙返りひねり下り」が「後方屈身(伸身)宙返り下り」と統合しA難度に変更
14	追加	「前振り上がり3/4ひねり単棒倒立」の追加(F難度)
15	削除	「棒端、前方かかえ込み(屈身)宙返り懸垂」の「棒端」と「かかえ込み」の削除
16	削除	「棒端中向き(開脚)旋回1回」の削除
17	削除	「棒の中央(棒端外向き)で(開脚)旋回1回」の削除
18	削除	「棒端で下向き360°転向(デレサレ)」の削除
19	削除	「開脚旋回倒立」の削除
20	削除	「開脚旋回倒立ひねり」の削除
21	削除	「棒下宙返り背面倒立経過とび倒立(クシエラ/セレン)」の削除
22	削除	「横向き逆上がり倒立とび移行懸垂」の削除
23	削除	「横向き後方開脚浮腰回転倒立」の削除
24	追加	「横向き逆上がり倒立経過、3/4ひねり支持」(E難度)

※(公財)日本体操協会 体操競技男子2022年版採点規則情報を元に加筆、修正を行った

多くの選手が演技に組み入れている技として、「棒下宙返りひねり倒立」があげられる。2022年版ではこの技での手の握り替えの回数に制限が設けられ、2回以内で捌くことが求められることとなった。これにより、3回の握り替えが行われた実施は「棒下宙返り1/4ひねり倒立」と判定され、「棒下宙返り倒立」と同一技としてD難度で判定されることとなった。

終末技では、「前方かかえ込み2回宙返りひねり下り」が格下げとなり「前方かかえ込み2回宙返り下り」に統合されE難度に変更された。

一方、棒端、懸垂前振りからの後方2回宙返り下りの技群では、「棒端懸垂前振り後方かかえ込み2回宙返り下り」がC難度、これを“屈身”で実施した場合D難度、“後方かかえ込み2回宙返り1回ひねり下り”がE難度に1段階格上げされた。“後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり下り”は前回と同じF難度に設定されている。2016年リオデジャネイロオリンピックで1名実施された以降、2017年版のサイクルでは2017、2018、2019年世界選手権、2021年のオリンピック東京大会において実施する選手はみられなかったが、今後、再び実施する選手が現れると予測される。

難度が格上げとなった技では、車輪からのディアミドフの技群が注目される。1段階の格上げではあるが、懸垂、車輪技を得意とする選手にはDスコアの向上を図る上で有効な技になると思われる。

1980年代から2000年代ごろまではよく見られた旋回技はすべて削除された。最近では実施する選手は皆無であり、現代の平行棒の演技には不要な技と判断されたようである。

6) 鉄棒

鉄棒における技の登録数は130技であり、2017年版採点規則の147技から17技の減少となっている（表12）。難度表の変更は表13に示した。

減少の一因として、手放し技にひねりを加えて難度を格上げする技は、ひねりを伴わないオリジナル技と同様に組み入れられたことがあげられる。これに関しては以前より同一技（棒）にすべきであるとの意見が多く挙げられていたが、それが実現することとなった。

技の判定様式で大きな変更が生じたのは、シュタルダーやエンドーからのひねりを伴う技を分割して個々の技としたことがあげられる。これにより今まで1つの技であったものが2つの技として数えられるため、技の実施数を増やさずに技数を増やすことが出来るという現象が起きることとなった。例外として「シュタルダーとび3/2ひねり片大逆手」（D難度）と「シュタルダーとび3/2ひねり大逆手」（E難度）の2技は分割にされず、1つの技として判定されることが踏襲された。

手放し技においては特別な繰り返し規則が設けられ、コバチ系とトカチュフ系はそれぞれ2回まで使用可能との制限が追加された。ただし、同じ系統の手放し技を連続した場合は、他にも単独で1回実施することが出来、合計で3技まで認められる。

組合せ加点では、D難度以上のアドラー系と連続されたD難度の手放し技の場合0.1、E難度以上の手放し技では0.2が与えられることとなった。

表 12 鉄棒 難度別による掲載された技数

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	合計
2017 年版	17	31	34	31	15	8	9	1	1	147
2022 年版	16	27	32	25	12	7	9	1	1	130

表 13 鉄棒 難度表変更一覧

番号	変更項目	変更内容
1	棒の統合、難度変更	「マルケロフひねり片大逆手後ろ振り上がり倒立」と「後ろ振り上がり開脚とび越しひねり懸垂」が統合し C 難度に変更
2	棒の統合、難度変更	「伸身マルケロフ」と「ヤマワキひねり片大逆手後ろ振り上がり倒立」が統合し C 難度に変更
3	棒の統合、難度変更	「リンチ」が「トカチェフ」と統合し C 難度に変更
4	棒の統合、難度変更	「サミログ」が「屈身トカチェフ」と統合し C 難度に変更
5	棒の統合、難度変更	「モズニク」が「伸身トカチェフ」と統合し D 難度に変更
6	棒の統合、難度変更	「ピアッティひねり」が「ピアッティ」と統合し D 難度に変更
7	棒の統合、難度変更	「キエルコフスキー」が「伸身ピアッティ」と統合し E 難度に変更
8	棒の分化	「トカチェフ」と「屈身トカチェフ」が別棒に変更
9	棒の分化、難度変更	「閉脚エンドー」が C 難度に変更（「エンドー」は B 難度で変更無し）
10	棒の分化、難度変更	「閉脚シュタルダー」が C 難度に変更（「シュタルダー」は変更無し）
11	棒の分化、難度変更	「閉脚シュタルダーとび逆手持ち換え倒立」が C 難度に変更（開脚は B 難度で変更無し）
12	棒の分化、難度変更	「大逆手閉脚エンドー」が D 難度に変更（開脚は C 難度で変更無し）
13	追加	「屈身ピアッティひねり」の追加（屈身ピアッティと同棒）
14	追加	「後方屈身 2 回宙返り下り」の追加（かかえ込みと同棒）
15	削除	「後方とび車輪 2 回ひねり」の削除
16	削除	「足裏支持回転からのピアッティ」の削除
17	削除	「足裏支持回転からの伸身ピアッティ」の削除
18	削除	「足裏支持回転からの伸身ピアッティ 1 回ひねり」の削除
19	削除	「シュタルダーひねり直ちにひねりとび越し懸垂（ヤンセン）」の削除
20	削除	「け上がり倒立ひねり」の削除
21	削除	「け上がり倒立 1 回ひねり片大逆手」の削除
22	削除	「け上がり倒立 1 回ひねり大逆手」の削除
23	削除	「ワイラー 1 回ひねり片大逆手」の削除
24	削除	「ワイラー 1 回ひねり大逆手」の削除
25	削除	「ワイラーひねり倒立」の削除
26	削除	「懸垂振り出しひねり倒立」・「後方浮支持回転ひねり倒立」の削除
27	削除	「懸垂振り出しひねり大逆手」・「後方浮支持回転ひねり大逆手」の削除
28	削除	「懸垂振り出しとび 1 回ひねり倒立」・「後方浮支持回転とび 1 回ひねり倒立」の削除
29	削除	「エンドーひねり倒立」の削除
30	削除	「エンドー 1 回ひねり片大逆手」の削除
31	削除	「エンドー 1 回ひねり大逆手」の削除
32	削除	「シュタルダーとび 1 回ひねり倒立」の削除
33	削除	「シュタルダーひねり倒立」の削除
34	削除	「シュタルダーひねり大逆手」の削除
35	削除	「大逆手エンドー 1 回ひねり逆手(片大逆手) 倒立」の削除

※（公財）日本体操協会 体操競技男子 2022 年版採点規則情報を元に加筆、修正を行った

2. 2017年版採点規則による演技構成との比較, および演技構成上の指標

2017年版採点規則により採点されたオリンピック東京大会種目別決勝の演技構成が2022年版採点規則を適用するとどのようなDスコアの値になるのかを国際審判員の資格を有する筆者が検証を行った。

対象とした演技は、オリンピック東京大会、種目別決勝に進出した各種目8名の演技である。選手の掲載順は決勝における結果により上位順とした(表14)。

表 14 東京オリンピック種目別決勝進出者

ゆか

順位	Gymnast	Code
1	ZAPATA Rayderley	ESP
2	DOLGOPYAT Artem	ISR
3	XIAO Ruoteng	CHN
4	RYU Sunghyun	KOR
5	KARIMI Milad	KAZ
6	MOLDAUER Yul	USA
7	KIM Hansol	KOR
8	NAGORNYI Nikita	ROC

あん馬

順位	Gymnast	Code
1	WHITLOCK Max	GBR
2	LEE Chih Kai	TPE
3	KAYA Kazuma	JPN
4	BELYAVSKIY David	ROC
5	KAMEYAMA Kohei	JPN
6	YODER Alec	USA
7	Mc CLENAGHAN Rhys	IRL
8	SUN Wei	CHN

つり輪

順位	Gymnast	Code
1	LIU Yang	CHN
2	YOU Hao	CHN
3	PETROUNIAS Eleftherios	GRE
4	AIT SAID Samir	FRA
5	COLAK Ibrahim	TUR
6	ABLIAZIN Denis	ROC
7	ASIL Adem	TUR
8	ZANETTI Arthur	BRA

跳馬

順位	Gymnast	Code
1	SHIN Jeahwan	KOR
2	ABLIAZIN Denis	ROC
3	DAVTYAN Artur	ARM
4	YULO Carlos Edriel	PHI
5	NAGORNYI Nikita	ROC
6	ASIL Adem	TUR
7	ONDER Ahmet	TUR
8	SOUZA Caio	BRA

平行棒

順位	Gymnast	Code
1	ZOU Jingyuan	CHN
2	DAUSER Lukas	GER
3	ARICAN Ferhat	TUR
4	YOU Hao	CHN
5	BELYAVSKIY David	ROC
6	MIKULAK Samuel	USA
7	PAKHNIUK Petro	UKR
8	FRASER Joe	GBR

鉄棒

順位	Gymnast	Code
1	HASHIMOTO Daiki	JPN
2	SRBIC Tin	CRO
3	NAGORNYI Nikita	ROC
4	MALONE Brody	USA
5	BULL Tyson	AUS
6	KITAZONO Takeru	JPN
7	DEURLOO Bart	NED
8	KARIMI Milad	KAZ

2.1 ゆか

8演技全ての演技構成においてDスコアの減少がみられた(表15)。得点減少に関わる要因は3点である。一つ目は技の統合により実施された技が繰り返しに抵触し認定されないこと、二つ目は宙返りの連続が組合せの対象から除外され、加点が得られないこと、三つ目は難度値が下がった技があることがあげられる。

ZAPATA Rayderley 選手(ESP)の演技は最も規則改定の影響を受けており、1.1の減少が生じた。技の統合による影響では2技が抵触している。高難度技において統合および難度変更がなされた2技のうちの一つである「前方屈身2回宙返りひねり」を「前方屈身2回宙返り」(E難度)とともに実施していること、また、多くの選手が組み入れている「後方伸身宙返り3/2ひねり」と「後方伸身宙返り2回ひねり」(C難度)の実施が要因である。

ルール変更による影響が最も軽微な演技は、NAGORNYI Nikita 選手(ROC)であり、統合ならびに難度が格下げされた「前方屈身2回宙返りひねり」の0.1のみであった。ゆか唯一のI難度である「後方屈身3回宙返り」を実施していること、また2回宙返り技との連続による組合せ加点を獲得していることもDスコアを高めている要因である。

最も高いDスコアはRYU Sunghyum 選手(KOR)の6.5であった。RYU選手の演技は高難度のひねり技が多く取り入れられた演技構成である。組合せ加点はないが、この演技構成を基本とし、「後方伸身宙返り3回ひねり」を「後方伸身宙返り4回ひねり」に、また「前方伸身宙返り2回ひねり」を「前方伸身宙返り5/2ひねり」に難度を向上させることができれば、さらにDスコアを高めることが出来る。

組合せ加点を獲得した演技はZAPATA 選手とNAGORNYI選手の2名のみであり、いずれも2回宙返り技との連続による加点であった。組合せ加点が得られるもう一つの前、または後の伸身宙返り(B難度)との組合せは、B難度として10技に含めなければならない条件を考えると、組合せ加点を得るよりも個々の宙返り技のひねり度数を増やして難度価値点を高くすること、また前方伸身宙返りを使用する場合は着地の安定性を鑑み、さらにひねりを加えて連続技の2つ目に起用する方が、選手にとっては得策である可能性が高い。とくに高難度技を多く取り入れ、種目別決勝を目指す演技では、その傾向が強くなると予想され、前後の伸身宙返りとの組合せ加点は利用価値が低くなると推測される。

8演技の全てで4回を超えた対角線の連続使用が見られた。これは、2022年版採点規則で設定された対角線3回までの制限に抵触することになる。この減点を回避しながらDスコアを高めるためにはサイドラインの短い距離で如何にして高難度技を実施するかを検討する必要があるであろう。あるいは対角線3回を連続使用した後にサイドラインをもう一方の対角線へ移動するためだけを目的に、低難度技や体操的な捌きによる実施にて素早く移動する策を講じる演技も現れる可能性も考えられる。

ゆかの演技時間の制限は70秒から75秒へと延長された。その目的は宙返り技の集合体だけとなる演技ではなく、動きの美しさ、また正確さの表現などを求めたものであるが、この5秒をどのように有効利用するかは選手に委ねられた課題である。宙返り技を行う前の2秒以上の静止は減点の対象となるため、体操的な捌きによる表現を組み入れながら、呼吸を整え、次の技への準備を行う工夫が求められる。静止技に関しては、開脚座から行う伸腕屈身力十字倒立、または伸腕屈身力倒立において2秒静止が求められていない開脚座を意図して静止する捌きが増えることも想像される。

表 15 東京オリンピック種目別決勝 ゆか演技構成

1位..DOLGOPYAT Artem (ISR)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	前転とび				A	II	
2	前方2回宙返り3/2ひねり(以降ザバタ)	G	II		F	II	
3	前方伸身宙返り1回ひねり	C	II		C	II	
4	前方伸身宙返り5/2ひねり	E	II	0.1	E	II	
5	後方かかえ込み2回宙返り3回ひねり(以降リ・ジャンク)	G	III		G	III	
6	後方伸身宙返り5/2ひねり	D	III		D	III	
7	前方伸身宙返り2回ひねり	D	II	0.2	D	II	
8	後方伸身宙返り3/2ひねり	D	III		C	III	
9	前方伸身宙返り3/2ひねり	C	II				くり返し
10	フェドルチェンコ	C	I		C	I	
11	後ろとびひねり前方かかえ込み2回宙返りひねり	D	IV		D	IV	
12							
Dスコア		6.6			6.0		

2位.ZAPATA Rayderley (ESP)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	前転とび				A	II	
2	ザバタ	G	II		F	II	
3	後方伸身宙返り3/2ひねり	C	III		C	III	
4	前方屈身2回宙返り	E	II	0.1	E	II	0.1
5	前方屈身2回宙返りひねり	F	II				くり返し
6	前方かかえ込み2回宙返りひねり	E	II		D	II	
7	後方伸身宙返り2回ひねり	C	III				くり返し
8	前後開脚				A	I	
9	開脚座から伸腕屈身力十字倒立	C	I		C	I	
10	後方伸身宙返り5/2ひねり	D	III		D	III	
11	前方伸身宙返り1回ひねり	C	II	0.1	C	II	
12	後方伸身2回宙返り	D	IV		D	IV	
Dスコア		6.6			5.5		

3位..XIAO Ruoteng (CHN)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	前方伸身宙返り5/2ひねり	E	III		E	II	
2	後方伸身宙返り7/2ひねり	E	III		E	III	
3	前方伸身宙返りひねり	B	II	0.1	B	II	
4	後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり	E	III		E	III	
5	後方伸身宙返り5/2ひねり	D	III		D	III	
6	前方伸身宙返り2回ひねり	D	II	0.2	D	II	
7	シュビンデル・ゴゴラーゼ	D	I		D	I	
8	ゴゴラーゼ	C	I		C	I	
9	後方伸身宙返り2回ひねり	C	III		C	III	
10	後方伸身宙返り3回ひねり	D	IV		D	IV	
Dスコア		6.2			5.9		

4位..RYU Sunghyum (KOR)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	ザバタ	G	II		F	II	
2	前方伸身宙返り1回ひねり	C	II		C	II	
3	前方伸身宙返り3回ひねり	F	II	0.1	F	II	
4	前方屈身2回宙返りひねり	F	II		F	II	
5	後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり	E	III		E	III	
6	後方伸身宙返り5/2ひねり	D	III		D	III	
7	前方伸身宙返り2回ひねり	D	II	0.2	D	II	
8	フェドルチェンコ	C	I		C	I	
9	後方伸身宙返り3回ひねり	D	III		D	III	
10	後方伸身宙返り7/2ひねり	E	IV		E	IV	
Dスコア		7.0			6.5		

5位..KARIMI Milad (KAZ)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	前転とび				A	II	
2	前方かかえ込み2回宙返りひねり	E	II		D	II	
3	後方伸身宙返り7/2ひねり	E	III		E	III	
4	前方伸身宙返り3/2ひねり	C	II	0.1	C	II	
5	前方伸身宙返り1回ひねり	C	II				くり返し
6	前方伸身宙返り5/2ひねり	E	II		E	II	
7	後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり	E	III		E	III	
8	開脚座から伸腕屈身力十字倒立	C	I		C	I	
9	後方伸身宙返り5/2ひねり	D	III		D	III	
10	前方伸身宙返り2回ひねり	D	II	0.2	D	II	
11	後方伸身宙返り3回ひねり	D	IV		D	IV	
Dスコア		6.4			5.8		

6位..MOLDAUER Yul (USA)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	前方伸身宙返り5/2ひねり	E	II		E	II	
2	後ろとびひねり前方かかえ込み2回宙返りひねり	D	III		D	III	
3	前方伸身宙返り2回ひねり	D	II		D	II	
4	前方伸身宙返り1回ひねり	C	II	0.1	C	II	
5	開脚座回270°以上ひねり直接倒立(2回の旋回で)	C	I		C	I	
6	後方伸身宙返り5/2ひねり	D	III		D	III	
7	前方伸身宙返りひねり	B	II	0.1	B	II	
8	後方伸身宙返り2回ひねり	C	III		C	III	
9	後方伸身宙返り3回ひねり	D	IV		D	IV	
10							
11							
Dスコア		5.4			5.2		

7位..NAGORNYY Nikita (ROC)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	後方屈身3回宙返り	I	III		I	III	
2	前方屈身2回宙返りひねり	F	II		E	II	
3	前方伸身宙返り2回ひねり	D	II		D	II	
4	前方かかえ込み2回宙返り	D	II	0.2	D	II	0.2
5	後方伸身宙返り5/2ひねり	D	III		D	III	
6	前方かかえ込み宙返りひねり	A	II		A	II	
7	後方伸身宙返り3/2ひねり	C	III		C	III	
8	前方伸身宙返り3/2ひねり	C	II		C	II	
9	開脚座から伸腕屈身力十字倒立	C	I		C	I	
10	後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり	E	IV		E	IV	
Dスコア		6.4			6.3		

8位..KIM Hansol (KOR)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	前方屈身2回宙返りひねり	F	II		E	II	
2	前方かかえ込み2回宙返りひねり	E	II		D	II	
3	前方伸身宙返り1回ひねり	C	II		C	II	
4	前方伸身宙返り5/2ひねり	E	II	0.1	E	II	
5	後方伸身宙返り7/2ひねり	E	III		E	III	
6	後方伸身宙返り5/2ひねり	D	III		D	III	
7	前方伸身宙返り2回ひねり	D	II	0.2	D	II	
8	ロシアン転向	A	I		A	I	
9	開脚座から伸腕屈身力十字倒立	C	I		C	I	
10	後方伸身宙返り3回ひねり	D	IV		D	IV	
Dスコア		6.3			5.8		

2.2 あん馬

8演技全ての演技構成においてDスコアに減少がみられた(表16)。

得点減少に関わる要因は4点である。

一つ目は、5名の選手が「逆交差1/4ひねり一手上倒立経過、下ろして開脚支持」を実施しているが、難度変更によりC難度へ格下げとなり0.1の減少が生じている。

二つ目は、開脚旋回による縦向き3部分移動の難度の格下げによる影響であり、4演技が該当する。そのうち3演技は前・後とも組み入れており、0.2の減少が生じた。

三つ目は、特別な繰り返しの制限による影響である。LEE Chih Kai選手(TPE)は「ボメルを挟んで横向き旋回1回ひねり」、また萱和磨選手(JPN)は「ロス(または同じ難度のトン・フェイ)」が抵触し除外となった。

四つ目は、技の解釈の変更による影響である。BELYAVSKIY David選手(ROC)は「ウ・グオニアン(E難度)」が「馬端横向き支持からロシアン630°転向移動(D難度)」, またYODER Alec選手(USA)は「ロス(D難度)」が「上向き正転向移動(A難度)」で判定となった。YODER選手の場合は「上向き正転向移動」がグループの配置も変更となったため、6技目の同一グループ制限に抵触し、得点算出の対象技が9技となっている。

最も高いDスコアはWHITLOCK Max選手(GBR)の6.8であった。その次が亀山耕平選手の6.6である。他の選手は6点前半であり、両選手とも大きなアドバンテージを有している。WHITLOCK

表 16-1 東京オリンピック種目別決勝 あん馬演技構成

1位.WHITLOCK Max(GBR)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	逆交差1/4ひねり一手上倒立経過、下ろして開脚支持	D	I	C	I
2	Gコンバイン	G	II	G	II
3	Eフロップ	E	II	E	II
4	ブスナリ	F	II	F	II
5	開脚旋回縦向き3/3前移動	E	III	D	III
6	開脚旋回縦向き3/3後ろ移動1回ひねり(2回以内の旋回で)	E	III	E	III
7	ロス	D	III	D	III
8	ウ・グオニアン	E	III	E	III
9	馬端馬背ロシアン1080°転向	D	II	D	II
10	DSA倒立450°ひねり3/3移動下り	E	IV	E	IV
Dスコア		7.0		6.8	

2位.LEE Chih Kai(TPE)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	逆交差1/4ひねり一手上倒立経過、下ろして開脚支持	D	I	C	I
2	横向き旋回			A	II
3	下向き逆移動倒立3/3移動下ろして旋回	E	II	E	II
4	ビネーロ	D	II	D	II
5	ケイハ I	F	II	F	II
6	アイヒホルン	E	II	E	II
7	ボメルを挟んで横向き旋回1回ひねり	D	II	くり返し抵触	
8	ウルジカ2	E	III	E	III
9	開脚旋回縦向き3/3前移動	E	III	D	III
10	開脚旋回縦向き3/3後移動	E	III	D	III
11	下向き逆移動倒立3/3移動下り	D	IV	D	IV
Dスコア		6.7		6.1	

3位.萱和磨(JPN)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	ブスナリ	F	II	F	II
2	横向き旋回			A	II
3	逆交差1/4ひねり一手上倒立経過、下ろして開脚支持	D	I	C	I
4	Eフロップ	E	II	E	II
5	Dコンバイン	D	II	D	II
6	トンフェイ	D	III	D	III
7	ウ・グオニアン	E	III	E	III
8	ロス	D	III	くり返し抵触	
9	開脚旋回縦向き3/3前移動	E	III	D	III
10	開脚旋回縦向き3/3後移動	E	III	D	III
11	DSA倒立3/3移動下り	D	IV	D	IV
Dスコア		6.6		6.0	

4位.BELYAVSKIY David(ROC)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	逆交差1/4ひねり一手上倒立経過、下ろして開脚支持	D	I	C	I
2	ショーン	E	II	E	II
3	Eコンバイン	E	II	E	II
4	ウ・グオニアン 馬端横向き支持からロシアン630°転向移動	E	III		D III
5	ロス	D	III	D	III
6	縦向き旋回1回ひねり	D	II	D	II
7	Eフロップ	E	II	E	II
8	マジヤール移動	D	III	D	III
9	シバド移動	D	III	D	III
10	DSA倒立3/3移動下り	D	IV	D	IV
Dスコア		6.4		6.2	

表 16-2 東京オリンピック種目別決勝 あん馬演技構成

5位. 亀山耕平 (JPN)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	リーニン	D	I	D	I
2	ショーシ	E	II	E	II
3	ブスナリ	F	II	F	II
4	開脚旋回縦向き3/3前移動	E	III	D	III
5	開脚旋回縦向き3/3後ろ移動	E	III	D	III
6	Eコンバイン	E	II	E	II
7	Eフロップ	E	II	E	II
8	ウ・グオニアン	E	III	E	III
9	ロス	D	III	D	III
10	DSA倒立3/3移動下り	D	IV	D	IV
Dスコア		6.8		6.6	

6位. YODER Alec (USA)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	正交差倒立	D	I	D	I
2	ショーシ	E	II	E	II
3	ベズゴ	E	II	E	II
4	Eフロップ	E	II	E	II
5	Dコンバイン	D	II	D	II
6	ロス 上向き正転向移動(2022年版)	D	III		II
7	馬端縦向き旋回1回ひねり	D	II	D	II
8	マジヤール移動	D	III	D	III
9	シンド移動	D	III	D	III
10	DSA倒立450°ひねり3/3移動下り	E	IV	E	IV
Dスコア		6.4		6.0	

7位. Mc CLENAGHAN Rhys (IRL)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	逆交差1/4ひねり一把握上倒立経過、下ろして開脚支持	D	I	C	I
2	Gコンバイン	G	II	G	II
3	Eフロップ	E	II	E	II
4	あん馬馬背下向き(ロシアン)1080°転向	E	II	E	II
5	一把握上縦向き旋回	B	II	B	II
6	マジヤール移動	D	III	D	III
7	シンド移動	D	III	D	III
8	ウ・グオニアン	E	III	E	III
9	馬端馬背ロシアン1080°転向	D	II	D	II
10	DSA倒立3/3移動下り	E	IV	E	IV
Dスコア		6.4		6.2	

8位. SUN Wei (CHN)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	逆交差1/4ひねり一把握上倒立経過、下ろして開脚支持	D	I	C	I
2	リーニン	D	I	D	I
3	Eフロップ	E	II	E	II
4	Eコンバイン	E	II	E	II
5	ウ・グオニアン	E	III	E	III
6	馬端馬背ロシアン1080°転向	D	II	D	II
7	ロス	D	III	D	III
8	マジヤール移動	D	III	D	III
9	シンド移動	D	III	D	III
10	DSA倒立3/3移動下り	D	IV	D	IV
Dスコア		6.3		6.2	

選手がさらにDスコアを高めると仮定した場合、演技の中で唯一のC難度である「逆交差1/4ひねり一把握上倒立経過、下ろして開脚支持」を「リーニン」(D)に替えること、またはベルトンチェリや3/4ベズゴを組み入れたフロップ、コンバインへの変更も選択肢としては考えられるが、体力や動きの安定性を含めた演技の遂行力を考えた場合、得策であるとは言い難い。今後の動向を注視していきたい。

8選手がグループのI以外ではD難度以上の技で構成を組むことが可能な競技力を有すると思われるが、より高い難度の技を組み入れるかどうかは個々の選手の得意とする系統の技の選択による。ただし、特別な繰り返しの制限があるため、技の選択には注意を要するであろう。

あん馬の演技を評価の観点から考えた場合、縦向き3部分移動技は角度逸脱による減点を伴う可能性が高いため、それが生じにくい「1回の旋回で正面横移動(馬端1-2から逆馬端4-5)」(D)を組み入れることは選択肢として有効であると考えられる。

2.3 つり輪

つり輪では8演技全ての演技構成で0.1の減少が生じた。得点減少に関わる要因は1点であり、F難度からE難度へ格下げとなった「ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持」による影響である(表17)。

8名のDスコアの差異はYOU Hao選手(CHN)の6.5からASIL Adem選手(TUR)の6.1までの

0.4であり、他の種目よりも僅差であった。高いDスコアを有する選手は十字倒立系の技を組み入れている、または終末技で高難度技を実施している傾向がみられる。ZANETTI Arthur選手（BRA）が終末技で後方3回宙返り下り（G難度）を実施したが、このように終末技で高いDスコアを目指す方向性は今後も増えると予測される。

2022年版採点規則では終末局面が十字倒立になる3技で難度の格上げがなされたので、組み入れを検討する選手が増えると思われるが、捌きの状況によっては実施減点が伴い、結果的に得点が減少する可能性も高い。十字倒立の理想像はLIU Yang選手の（CHN）捌きであるが、腕が水平になるまで身体を下した実施は、習得が非常に困難であると思われる。

終末局面が「開脚水平支持(2秒)」で静止する技を組み入れている選手は多く見られ、オリンピック東京大会団体出場の日本選手4名は全員が実施している。2022年版採点規則に対応するためには水平支持へ変更する、あるいは他の技を組み入れる対策が必要であるが、これは4選手のみならず日本選手全体の課題と言える。

2022-2024国際審判講習では、つり輪の採点が技の認定だけでなく、動きの正確性においても非常に厳格に判定され、厳しい評価がなされていた。日本はつり輪を弱点としているが、現状のままでは諸外国チームにより差をつけられる可能性が高い。力技は一朝一夕に習得できるものではないため、オリンピックパリ大会までの期間を勘案し、有効な戦略となる強化トレーニング内容を立案・実施することが必要である。一案として、まずは減点が多少多くても必須と

表 17-1 東京オリンピック種目別決勝 つり輪演技構成

1位.LIU Yang(CHN)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持	F	II	E	II
2	ヤン・ミンヨン	E	II	E	II
3	バランディン2	F	II	F	II
4	ジョナサン	D	I	D	I
5	輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂	D	III	D	III
6	ヤマワキ	C	I	C	I
7	後ろ振り上がり中水平支持	E	III	E	III
8	ナカヤマ	D	II	D	II
9	前方車輪倒立	C	I	C	I
10	後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり下り	E	IV	E	IV
Dスコア		6.5		6.4	

2位. YOU Hao(CHN)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	バランディン2	F	II	F	II
2	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持	F	II	E	II
3	後ろ振り上がり中水平支持	E	III	E	III
4	後方車輪倒立	C	I	C	I
5	オニール	E	I	E	I
6	アザリアン	D	II	D	II
7	ジョナサン	D	I	D	I
8	輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂	D	III	D	III
9	前方車輪倒立	C	I	C	I
10	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	F	IV	F	IV
Dスコア		6.6		6.5	

3位.PETROUNIAS Eleftherios(GRE)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	ヤン・ミンヨン	E	II	E	II
2	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持	F	II	E	II
3	後ろ振り上がり中水平支持	E	III	E	III
4	後方車輪倒立	C	I	C	I
5	後ろ振り上がり水平支持	D	III	D	III
6	ナカヤマ	D	II	D	II
7	輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂	D	III	D	III
8	ジョナサン	D	I	D	I
9	前方車輪倒立	C	I	C	I
10	後方かかえ込み2回宙返り2回ひねり下り	E	IV	E	IV
Dスコア		6.3		6.2	

4位. AIT SAID Samir(FRA)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり倒立(中水平経過)	E	II	E	II
2	ヤン・ミンヨン	E	II	E	II
3	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持	F	II	E	II
4	前方車輪倒立	C	I	C	I
5	ジョナサン	D	I	D	I
6	後ろ振り上がり中水平支持	E	III	E	III
7	ナカヤマ	D	II	D	II
8	後ろ振り上がり水平支持	D	III	D	III
9	後方車輪倒立	C	I	C	I
10	後方伸身2回宙返り1回ひねり下り	D	IV	D	IV
Dスコア		6.3		6.2	

表 17-2 東京オリンピック種目別決勝 つり輪演技構成

5位.COLAK Ibrahim (TUR)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	ヤン・ミンヨン	E	II	E	II
2	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持	F	II	E	II
3	後ろ振り上がり水平支持	D	III	D	III
4	ヤマワキ	C	I	C	I
5	ジョナサン	D	I	D	I
6	後ろ振り上がり中水平支持	E	III	E	III
7	ナカヤマ	D	II	D	II
8	輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂	D	III	D	III
9	前方車輪倒立	C	I	C	I
10	前方屈身2回宙返り下り	D	IV	D	IV
Dスコア		6.2		6.1	

6位.ABLIAZIN Denis (ROC)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	ヤン・ミンヨン	E	II	E	II
2	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持	F	II	E	II
3	後方け上がり中水平支持	E	III	E	III
4	ヤマワキ	C	I	C	I
5	ジョナサン	D	I	D	I
6	後ろ振り上がり水平支持	D	III	D	III
7	ナカヤマ	D	II	D	II
8	前方車輪倒立	C	I	C	I
9	後方車輪倒立	C	I	C	I
10	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	F	IV	F	IV
Dスコア		6.3		6.2	

7位.ASIL Adem (TUR)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持	F	II	E	II
2	後方け上がり中水平支持	E	III	E	III
3	ナカヤマ	D	II	D	II
4	ヤマワキ	C	I	C	I
5	ジョナサン	D	I	D	I
6	輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂	D	III	D	III
7	後ろ振り上がり水平支持	D	III	D	III
8	後方車輪倒立	C	I	C	I
9	前方車輪倒立	C	I	C	I
10	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	F	IV	F	IV
Dスコア		6.2		6.1	

8位.ZANETTI Arthur (BRA)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	ヤン・ミンヨン	E	II	E	II
2	後ろ振り上がり水平支持	D	III	D	III
3	ゆっくりと後方伸腕伸身逆上がり中水平支持	F	II	E	II
4	ヤマワキ	C	I	C	I
5	ジョナサン	D	I	D	I
6	後ろ振り上がり中水平支持	E	III	E	III
7	ナカヤマ	D	II	D	II
8	輪の高さで前方宙返り直接十字懸垂	D	III	D	III
9	前方車輪倒立	C	I	C	I
10	後方かかえ込み3回宙返り下り	G	IV	G	IV
Dスコア		6.5		6.4	

なる高難度技を組み入れる方向性を促すことが必要になってくると思われる。また、演技構築の方向性の共通認識を図ったうえでの強化チーム、および審判の連携がより重要になっていくであろう。

2.4 跳馬

跳馬では他の5種目と異なり、価値点の変更はなかった。しかしながらグループ分けが改変したことにより、唯一SHIN Jeahwan選手 (KOR) の2跳越がともにグループIとなり、減点項目の一つである“種目別予選あるいは決勝で同一グループの跳越技を繰り返す”に抵触することとなった(表18)。その他の7選手はグループIIもしくはIIIの2回宙返り系の技を1本ないし2本を実施したため、上記の減点には抵触しなかった。一方、ユルチェンコ系の技は実施されなかった。種目別決勝に進出するためには少なくとも価値点が5.6以上の技を2本用意する必要がある。日本選手の多くがひねり系の跳越技を実施しているが、今後種目別決勝を目指すためには、屈身もしくはひねりを伴う2回宙返りの技かユルチェンコ系の技を習得する必要がある。いずれも習得には長期的な取り組みを要する。2022年からの中学生適用(U-15)では、前方入りの跳越技とそれ以外の入りの跳越技の2本を求めることを設定した。これは長期的なトレーニング戦略として有効な手段として期待される。

表 18 東京オリンピック種目別決勝 跳馬演技構成

1位.SHIN Jeahwan (KOR)

	跳越技	価値点	新グループ
1	伸身カサマツ5/2ひねり(ヨネクラ)	6.0	I
2	前転とび前方伸身宙返り5/2ひねり(ヨ-2)	5.6	I

2位.ABLIAZIN Denis (ROC)

	跳越技	価値点	新グループ
1	前転とび前方伸身宙返り5/2ひねり(ヨ-2)	5.6	I
2	屈身ツカハラ後方屈身宙返り(ルー・ユーフ)	5.6	III

3位.DAVTYAN Artur (ARM)

	跳越技	価値点	新グループ
1	伸身カサマツ2回ひねり(ロベス)	5.6	I
2	ローチェひねり(ドラグレスク)	5.6	II

4位.YULO Carlos Edriel (PHI)

	跳越技	価値点	新グループ
1	伸身カサマツ2回ひねり(ロベス)	5.6	I
2	ローチェひねり(ドラグレスク)	5.6	II

5位.NAGORNYI Nikita (ROC)

	跳越技	価値点	新グループ
1	ローチェひねり(ドラグレスク)	5.6	II
2	屈身ツカハラ後方屈身宙返り(ルー・ユーフ)	5.6	III

6位.ASIL Adem (TUR)

	跳越技	価値点	新グループ
1	屈身ドラグレスク(リ・セグアン2)	6.0	II
2	屈身ツカハラ後方屈身宙返り(ルー・ユーフ)	5.6	III

7位.ONDER Ahmet (TUR)

	跳越技	価値点	新グループ
1	前転とび前方かかえ込み2回宙返り(ローチェ)	5.2	II
2	伸身カサマツ3/2ひねり(ドリグス)	5.2	I

8位.SOUZA Caio (BRA)

	跳越技	価値点	新グループ
1	伸身カサマツ2回ひねり(ロベス)	5.6	I
2	前転とび前方かかえ込み2回宙返り(ローチェ)	5.2	II

2.5 平行棒

8演技全ての演技構成においてDスコアに減少がみられた(表19)。

得点減少に関わる要因は技の判定の解釈によるもの、および難度価値の格下げによる2点である。

一つ目は、「棒下宙返りひねり倒立」が手の握り替えの回数制限により、「棒下宙返り1/4ひねり倒立」、および「棒下宙返り倒立」と同一技として判定されたことによるものである。これにより「棒下宙返りひねり倒立」が繰り返したとなった演技が6演技あった。同じひねり度数の技であっても握り替えの制限に抵触しない捌きで実施したDAUSER Lukas選手(GER)、およびFRASER Joe選手(GBR)は「棒下宙返りひねり倒立」として認定された。

二つ目は、終末技の難度変更である。すべての演技の終末技は「前方かかえ込み2回宙返りひねり下り」であり、難度格下げのため0.1の減少が生じた。

最も高いDスコアはARICAN Ferhat選手(TUR)の6.9であった。優勝したZOU Jingyuan選手(CHN)は6.4となり、0.5の下げ幅であったが、今回繰り返したとなった「棒下宙返りひねり倒立」以外にもティッペルトが実施可能であり、これを入れ替えると同じ6.9になる。

両選手とも「前振り上がり片腕支持1回ひねり倒立」(以降リチャードと記す)を実施しているが、ZOU選手は「後方車輪倒立」も実施しているため、格上げとなった「車輪ディアミドフ」が実施可能な競技力があると思われる。「車輪ディアミドフ」、または「車輪ディアミドフ(1/4)ひねり」(F難度)を組み入れることが可能となれば、再び7.0以上のDスコアを有することになる。

2022年版採点規則の演技実施の評価項目において、「前振り上がり」の振り上がり局面での背中ラインがバーに対して水平になることが求められることとなった。水平以下で45°までは0.1、45°を超えると0.3の減点となる。多くの選手が“宙返りを伴い腕支持になる技”の後処理として同技を組み入れているが、その大半が減点に抵触する。“宙返りを伴い腕支持になる技”を組み入れDスコアを高めたとしても、減点が多く科されてしまうと、結果的に高得点は望めない。この減点項目が実際にどの程度厳格に適用されるかを注視していく必要があるとともに、“宙返りを伴い腕支持になる技”の完成度を高めること、もしくは終末局面を懸垂に繋げる技へと代える工夫

を取り入れるのも策の一つであろう。

終末技における棒端での宙返り技は難度が高まった。身長が低く懸垂系の技が得意な選手には魅力のある技の一つになるかもしれない。ただし、2017年版採点規則のあん馬において、縦向き開脚旋回3部分移動（開脚マジヤール、開脚シバド）の難度の向上が図られたが2022年版では元に戻された経緯を鑑みると、2025年以降をも見据えた場合、習得を手がけることに躊躇する懸念も考えられる。

表 19-1 東京オリンピック種目別決勝 平行棒演技構成

1位.ZOU Jingyuan (CHN)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	前振り上がり			A	II
2	ソラキディス	G	II	G	II
3	マクーツ	E	I	E	I
4	リチャード	E	II	E	II
5	後方車輪倒立	C	III	C	III
6	棒下宙返りひねり倒立 (2022年版1/4ひねりで判定)	E	III	D	III
7	棒下宙返り倒立	D	III	くり返し	
8	前方開脚宙返り直接懸垂	E	I	E	I
9	バブサー	E	III	E	III
10	ヒーリー	D	I	D	I
11	前方かかえ込み2回宙返りひねり下り	F	IV	E	IV
Dスコア		6.9		6.4	

2位.DAUSER Lukas (GER)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	棒下宙返りひねり倒立	E	III	E	III
2	棒下宙返り倒立	D	III	D	III
3	ソラキディス	G	II	G	II
4	リチャード	E	II	E	II
5	前振り上がりひねり倒立	E	II	E	II
6	マクーツ	E	I	E	I
7	ヒーリー	D	I	D	I
8	ディアマドフ	C	I	C	I
9	前振りひねり倒立	C	I	C	I
10	前方かかえ込み2回宙返りひねり下り	F	IV	E	IV
11					
Dスコア		6.7		6.6	

3位.ARICAN Ferhat (TUR)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	ソラキディス	G	II	G	II
2	リチャード	E	II	E	II
3	前振り上がりひねり倒立	E	II	E	II
4	シャルロ	E	III	E	III
5	単棒倒立からヒーリー	E	I	E	I
6	棒下宙返りひねり倒立 (2022年版1/4ひねりで判定)	E	III	D	III
7	マクーツ	E	I	E	I
8	ヒーリー	D	I	D	I
9	前振りひねり倒立	C	I	C	I
10	前方かかえ込み2回宙返りひねり下り	F	IV	E	IV
Dスコア		7.0		6.9	

4位.YOU Hao (CHN)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持	D	II	D	II
2	ドミトリエンコ	E	II	E	II
3	屈身モリスエ	E	I	E	I
4	棒下宙返りひねり倒立 (2022年版1/4ひねりで判定)	E	III	D	III
5	タナカ	F	III	F	III
6	屈身ベアーレ	E	III	E	III
7	バブサー	E	III	E	III
8	ティッパルト	D	III	D	III
9	ヒーリー	D	I	D	I
10	前方かかえ込み2回宙返りひねり下り	F	IV	E	IV
Dスコア		6.9		6.7	

5位.BELAVSKIY David (ROC)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	棒下宙返りひねり倒立 (2022年版1/4ひねりで判定)	E	III	D	III
2	棒下宙返り倒立	D	III	くり返し	
3	リチャード	E	II	E	II
4	前振り上がりひねり倒立	E	II	E	II
5	ティッパルト	D	III	D	III
6	バブサー	E	III	E	III
7	後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持	D	II	D	II
8	ヒーリー	D	I	D	I
9	前振り1/4ひねり単棒倒立	D	I	D	I
10	単棒横向き開脚浮腰支持経過倒立			B	III
11	前方かかえ込み2回宙返りひねり下り	F	IV	E	IV
Dスコア		6.6		6.2	

6位.MIKULAK Samuel (USA)

No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp
1	後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持	D	II	D	II
2	ヒーリー	D	I	D	I
3	棒下宙返りひねり倒立 (2022年版1/4ひねりで判定)	E	III	D	III
4	棒下宙返り倒立	D	III	くり返し	
5	懸垂前振り後方かかえ込み宙返りひねり腕支持	D	III	D	III
6	前方開脚宙返り直接懸垂	E	I	E	I
7	モイ (膝をまげて懸垂)			B	III
8	バブサー	E	III	E	III
9	ティッパルト	D	III	D	III
10	前振りひねり倒立	C	I	C	I
11	前方かかえ込み2回宙返りひねり下り	F	IV	E	IV
Dスコア		6.4		6.0	

表 19-2 東京オリンピック種目別決勝 平行棒演技構成

7位.PAKHNIUK Petro(UKR)					8位.FRASER Joe(GBR)						
No.	技名	2017年版		2022年版		No.	技名	2017年版		2022年版	
		難度	Grp	難度	Grp			難度	Grp	難度	Grp
1	前振り上がり			A	II	1	後ろ振り上がり前方屈身宙返り支持	D	III	D	III
2	棒下振り出し腕支持	A	III	A	III	2	後ろ振り倒立	A	I	A	I
3	後ろ振り上がり前方開脚宙返り腕支持	E	II	E	II	3	タナカ	F	III	F	III
4	棒下宙返り単棒倒立	D	III	D	III	4	タジェダ	E	I	E	I
5	マクーツ	E	I	E	I	5	棒下宙返りひねり倒立	E	III	E	III
6	棒下宙返りひねり倒立 (2022年版1/4ひねりで判定)	E	III	くり返し		6	棒下宙返り倒立	D	III	D	III
7	後方車輪倒立	C	III	C	III	7	後方車輪単棒倒立	D	III	D	III
8	前方開脚宙返り抜き腕支持	D	I	D	I	8	ヒーリー	D	I	D	I
9	ヒーリー	D	I	D	I	9	前振りひねり倒立	C	I	C	I
10	前振り1/4ひねり単棒倒立	D	I	D	I	10	後方車輪単棒倒立 (くり返し)				
11	前方かかえ込み2回宙返りひねり下り	F	IV	E	IV	11	前方かかえ込み2回宙返りひねり下り	F	IV	E	IV
Dスコア		6.1		5.6		Dスコア		6.1		6.0	

2.6 鉄棒

8演技全ての演技構成においてDスコアに減少がみられた(表20)。

減少幅が大きい演技は0.9の下げ幅でありSRBIC Tin選手(CRO), NAGORNYI Nikita選手(ROC), MALONE Brody選手(USA)の3演技であった。減少の要因としてひねりを伴うトカチェフ系の複数の技がそれぞれのひねりを伴わない技に統合されたことにより繰り返しとなったことが主たるものである。一方、コバチ系の制限に抵触した演技は下げ幅は少ないもののBULL Tyson選手(AUS), DEURLOO Bart選手(NED)の2演技で確認された。

新規則においてトカチェフ系とコバチ系の制限と組合せ加点に対し、どのように対応するかが選手たちの今後の大きな課題となるであろう。

橋本大輝選手(日本), 北園丈琉選手(日本), MALONE Brody選手(USA)の3選手はトカチェフ系とコバチ系のいずれも組み入れており、2022年版採点規則にも順応が早いと思われる。優勝した橋本選手は新しい規則でのDスコアは6.2, 北園選手は6.0となり、2名のみ6点台を維持しているが、より高難度の技の組み入れ、および安定性の確立により、オリンピックパリ大会での団体優勝への有力な武器になることを期待したい。

2022年版採点規則では「トカチェフ」と「屈身トカチェフ」が別枠に設けられた。また演技実施では伸身姿勢の屈曲度に関してイラスト付きで明確に記載された。これにより「伸身トカチェフ」の空中姿勢の出来栄によっては、「屈身トカチェフ」に判定される可能性も考えられる。2017年版では「トカチェフ」と「屈身トカチェフ」が同枠であったことから、「伸身トカチェフ」での姿勢を屈身と判断した場合、「トカチェフ」となり繰り返しになることから、審判心理として、やや緩やかに判断していたことも見受けられた。実際の判断基準をどのように設けるかFIGの情報が待たれる。

手放し技のうち、再びバーを握る前にひねりを伴う手放し技はオリジナルの技に集約されたが、技としては存在する。ただし、ひねりの度数、または肘まがり、懸垂した後に倒立に持ち込まなければならない条件等を考えると、今後実施する選手はいなくなるであろう。

逆にコバチ系とトカチェフ系の手放し技以外で、「バーを越えながら前方かかえ込み(開脚)宙返り懸垂」(以下ゲイロードと記す)や「ゲイロードひねり」(ペガン), 「屈身ペガン」(マラス), アドラー1回ひねりからのD難度以上の手放し技の連続は増えると予測される。

表 20 東京オリンピック種目別決勝 鉄棒演技構成

1位.橋本大輝(JPN)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	アドラーひねり倒立	D	III		D	III	
2	カッシーナ	G	II		G	II	
3	コールマン	E	II		E	II	
4	伸身トカチェフ	D	II		D	II	
5	リンチ	D	II	0.2	C	II	0.1
6	アドラー1回ひねり逆手倒立	E	III		E	III	
7	ヤマワキ	D	II		C	II	
8	シュタルダー	B	III		B	III	
9	後方とび車輪1回ひねり	C	I		C	I	
10	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	E	IV		E	IV	
	Dスコア		6.5			6.2	

2位.SRBIC Tin(CRO)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	前方車輪1回ひねり大逆手	C	I		C	I	
2	後方車輪				A	I	
3	シュタルダーとび3/2ひねり大逆手	E	III		E	III	
4	ピアッティ	D	II		D	II	
5	トカチェフ	C	II	0.1	C	II	0.1
6	伸身トカチェフ	D	II	0.1	D	II	0.1
7	リンチ	D	II	0.2			くり返し
8	前方車輪				A	I	
9	アドラーひねり倒立	D	III		D	III	
10	モズニク	E	II				くり返し
11	アドラー1回ひねり逆手倒立	E	III		E	III	
12	後方伸身2回宙返り1回ひねり下り	D	IV		D	IV	
	Dスコア		6.5			5.6	

3位.NAGORNYY Nikita(ROC)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	ヤマワキ	D	II		C	II	
2	後方車輪				A	I	
3	伸身トカチェフ	D	II		D	II	
4	モズニク	E	II				くり返し
5	前方車輪				A	I	
6	アドラー1回ひねり逆手倒立	E	III		E	III	
7	アドラーひねり倒立	D	III		D	III	
8	トカチェフ	C	II		C	II	
9	リンチ	D	II	0.1			くり返し
10	ツォ・リミン	C	I		C	I	
11	シュタルダー	B	III		B	III	
12	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	E	IV		E	IV	
	Dスコア		6.0			5.1	

4位.MALONE Brody(USA)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	後ろ振り上がりひねり倒立				A	I	
2	後方車輪				A	I	
3	カッシーナ	G	II		G	II	
4	コールマン	E	II		E	II	
5	伸身トカチェフ	D	II		D	II	
6	リンチ	D	II	0.1	C	II	0.1
7	モズニク	E	II				くり返し
8	アドラー1回ひねり片逆手倒立	D	III				戻ったため不成立
9	アドラーひねり倒立	D	III		D	III	
10	シュタルダー	B	III		B	III	
11	後方とび車輪1回ひねり	C	I		C	I	
12	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	E	IV		E	IV	
	Dスコア		6.5			5.6	

5位.BULL Tyson(AUS)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
	後方車輪				A	I	
1	アドラーひねり倒立	D	III		D	III	
2	コバチ	D	II				コバチ系3つ目
3	カッシーナ	G	II		G	II	
4	伸身コバチ	E	II		E	II	
5	シュタルダー	B	III		B	III	
6	ヤマワキ	D	II		C	II	
7	ツォ・リミン	C	I		C	I	
9	アドラー	C	III		C	III	
10	大逆手車輪	B	I		B	I	
11	後方伸身2回宙返り1回ひねり下り	D	IV		D	IV	
	Dスコア		5.8			5.4	

6位.北園丈琉(JPN)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	ヤマワキ	D	II		C	II	
2	エンドー	B	III		B	III	
3	アドラーひねり倒立	D	III		D	III	
4	カッシーナ	G	II		G	II	
5	コールマン	E	II		E	II	
6	後方浮腫回転後振り出し順手背面懸垂	C	III		C	III	
7	順手背面車輪	D	I		D	I	
8	順手背面懸垂前振り上がり後方浮腫回転倒立	C	III		C	III	
9	伸身トカチェフ	D	II		D	II	
10	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	E	IV		E	IV	
	Dスコア		6.1			6.0	

7位.DEURLOO Bart(NED)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	後ろ振り上がりひねり倒立	A	I		A	I	
2	後方車輪	A	I		A	I	
3	カッシーナ	G	II		G	II	
4	コバチ	D	II				コバチ系3つ目
5	屈身コバチ	E	II		E	II	
6	後方車輪ひねり倒立	A	I		A	I	
7	前方車輪				A	I	
8	アドラー1回ひねり逆手倒立	E	III		E	III	
9	アドラーひねり倒立	D	III		D	III	
10	後方とび車輪1回ひねり	C	I		C	I	
11	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	E	IV		E	IV	
	Dスコア		5.6			5.3	

8位.Milad KARIMI(KAZ)

No.	技名	2017年版			2022年版		
		難度	Grp	Con.	難度	Grp	Con.
1	ヤマワキ	D	II		C	II	
2	後方車輪	A	I		A	I	
3	カッシーナ	G	II		G	II	
4	コバチ (2回落下)						
5	前方車輪	A	I		A	I	
6	ツォ・リミン	C	I		C	I	
7	エンドー1回ひねり大逆手 (2022年版では分割して認定)	D	III		B	III	
	大逆手車輪	B	I		B	I	
8	逆手背面車輪	C	I		C	I	
9	後方伸身2回宙返り2回ひねり下り	E	IV		E	IV	
	Dスコア		5.0			4.9	

3. まとめ

オリンピック東京大会種目別決勝進出者の演技を2022年版採点規則に則りDスコアを算出したが、Dスコアを高める方策として種目ごとに特徴が明らかとなった。

ゆかでは、2回宙返りととの連続による組合せ加点を獲得する方法、もしくはひねり系の高難度技を繰り返して抵触することなく構成する2通りが考えられる。当然、このいずれにも対処し演技を構成する方法が大きな主流となるであろう。留意すべき点として、対角線の連続に関する規則にどのように対処するかがカギとなるが、サイドラインで単発の高難度技を実施するのか、別の対角線への素早い移動のみを考え、低難度の技を実施するかの二択が考えられる。実際に演技を構築するに当たり、演技時間と選手自身の体力、実践できる技の種類によって変わってくるであろう。

あん馬では、多くの特別な繰り返しの制限が設定されたため、多種多様な技への取り組みが必要である。「ベルトンチェリ」や「3/4ベズゴ」を組み入れたフロップ、コンバイン、「1回の旋回で正面横移動（馬端1-2から逆馬端4-5）」(D)の習得に取り掛かることは選択肢として考えられる方策である。

つり輪では、変更された規則が実際の演技にはさほど影響していないことが明確になった。その分、演技実施の格差に注目が集まる可能性が高いため、演技の質を高めることに注力を注ぐことが最重要課題である。

跳馬ではグループ分けが変更された。2017年版採点規則までは前方系と側方系の両方でひねり技を実施し種目別決勝を目指すことが可能であったが、今後、種目別決勝を目指すには第二局面での屈身もしくはひねりを伴う2回宙返り技、または、ユルチェンコ系の跳越技で高い価値点を目指すことが求められる。

平行棒では大幅な変更はみられなかったが、棒下宙返りひねり倒立の手の握り替えの捌き方、および“宙返りを伴い腕支持になる技”からの前振り上がりでの減点のない実施を確実に対処する必要が求められる。車輪からのディアミドフ系の技は難度が高まったことから、得意とする選手は効果的に組み入れることがDスコアを高める方策の一つである。

鉄棒では、手放し技でトカチェフ系とコバチ系の制限が設けられた。どちらの技も実施可能な選手が有利であり、また連続させることが得点を高める方法である。

2022年版採点規則では今まで以上に特別な繰り返しの制限が設けられたため、得意とする系統の技のみで演技を構成することは難しくなった。

多系統の技を取り入れることがより一層求められることとなったため、選手によっては特にゆかや鉄棒で演技構成を大幅に見直しすることを与儀なくされるであろう。

本稿で明らかになった演技構成上の指標はもとより、今後新たに条項が追加される可能性もあるため、演技構成の作成には柔軟な対応が求められる。

今後も2022年版採点規則の動向に注視し、その分析結果を蓄積することにより、新規則の姿を明らかにするとともに、その方向性を見極め、対応策を立案、および構築した演技の完成度を高めることに貢献したい。

謝 辞

本研究を進めるにあたり、辻哲夫先生（京都女子大学）に多くのご助言を頂きました。心より御礼申し上げます。

参考・引用文献

- 1) 日本体操協会 (2017) 採点規則男子2017年版, 日本体操協会 2017年2月
- 2) (公財)日本体操協会男子体操競技情報27号 2019年3月

- 3) (公財)日本体操協会男子体操競技情報28号 2020年1月
- 4) (公財)日本体操協会男子体操競技情報29号 2021年1月
- 5) 2022-2024 CODE OF POINTS ドラフト第2版・スペイン語版 (ES) FÉDÉRATION INTERNATIONALE DE GYMNASTIQUE 2020年2月 https://www.gymnastics.sport/publicdir/rules/files/es_MAG%20CoP%202022-2024.pdf
- 6) (公財)日本体操協会 体操競技男子2022年版採点規則情報 2021年11月
- 7) MTC NEWSLETTER #36 http://www.fig-docs.com/website/newsletters/MAG/2019/MAG_NL_36_en.pdf
- 8) MTC NEWSLETTER #39 http://www.fig-docs.com/website/newsletters/MAG/2021/MAG_NL_39_en.pdf
- 9) 2022-2024 CODE OF POINTS FREQUENTLY ASKED QUESTIONS https://web-sts.com/MAG_FAQ.pdf